職場での転倒にご注意ください！

転倒予防のために
適切な「靴」を選びましょう

サイズ

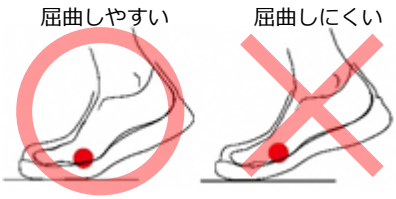
靴と足はフィットしていますか？

足に合った靴は疲労の軽減、事故の防止につながります。



屈曲性

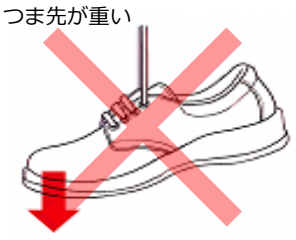
親指から小指の付け根を適度に曲げられますか？



靴の屈曲性が悪いと、疲労の蓄積、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。

重量バランス

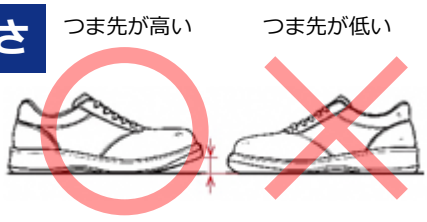
靴の前後の重さのバランスはとれていますか？



靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく、つまずきやすくなります。

つま先部の高さ

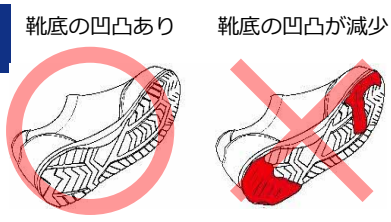
つま先から床面まで一定の高さがありますか？



つま先の高さが低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。

靴底の減り具合

靴底がすり減っていませんか？



靴底の減りが大きい靴は、滑りやすくなります

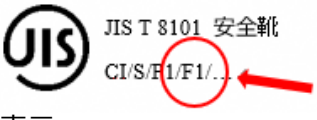
耐滑性の有無

靴の滑りにくさを確認していますか？

耐滑性を有する靴は、以下の箇所で確認できます。

■安全靴の場合

個装箱や中敷のJISマーク表示の近くに「F1」または「F2」の表示があるか確認してください。



■プロスニーカーの場合

靴のベロ裏面の表示に、耐滑性のピクト表示があるかを確認してください。



その他の性能

■静電気帯電防止性

静電気帯電による放電着火の防止と低電圧での靴底からの感電防止性能



■かかと部の衝撃エネルギー吸収性

かかとのクッション性に関係し、かかと部の疲労防止性能



■耐踏抜き性

釘などの鋭利なものから足裏を防護する性能



ＳＴＯＰ！転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体は、労働災害のうちで最も件数が多い「転倒災害」を減少させるため、「ＳＴＯＰ！転倒災害プロジェクト」を推進しています。

STOP！ 転倒　検索

日本安全靴工業会 Japan Protective Footwear Manufacturers Association

日本プロテクティブスニーカー協会

ひと、くらし、みらいのために 厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

先芯がいらない作業環境で使用する耐滑靴の探し方

作業時に着用する靴の安全性は、作業環境の状況に応じて決められています。
先芯（安全性を確保するために靴のつま先部分に入れる）を履く必要がない作業環境の場合でも、耐滑靴を着用しなければならないことがあります。
その場合、先芯入りの安全靴やプロスニーカーであれば、靴の表示で耐滑性を確認できますが、先芯入りでない靴は表示で耐滑性を確認することができません。
その場合は下記のメーカーへご相談ください。

職場の状況に適合する靴を紹介できるよう、以下の項目を参考に職場の作業環境等もご説明ください。

■作業中に重量物を取り扱うことがあるか

重量物を取り扱う場合、安全靴を着用してください



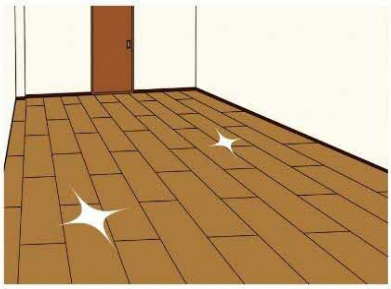
■作業中や作業後に水を取り扱うことことがあるか

水を取り扱う場合、靴の表面素材は人工皮革製・ゴム製が最適です



■床の材質
塗り床／タイル／カーペット 等

床の材質で適合する靴底が変わります



■滑りが発生する場合の状況

滑りが起きた状況によって対策が変わります

（例）
・物につまづいた
　→運搬と通路改善

・濡れた床で滑った
　→水・油用耐滑靴検討

・凍結路面で滑った
　→氷用耐滑靴検討



詳しくはメーカーや販売店にご相談ください

耐滑靴取り扱い店・メーカー

会社名	関連商品URL
弘進ゴム株式会社	https://www.kohshin-grp.co.jp/FormMail/shoes/
株式会社シモン	https://www.simon.co.jp/contact/
日進ゴム株式会社	https://www.nisshinrubber.co.jp/contact/index.html
野口ゴム工業株式会社	https://www.noguchirubber.jp/
株式会社丸五	https://www.marugo.ne.jp
ミズノ株式会社	https://sports-service.mizuno.jp/btob_service
ミドリ安全株式会社	https://forms.midori-anzen.co.jp/contact/fw